



SESERAGI-MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2009~2010年度 RI会長 ジョン・ケニー

RIテーマ THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS ロータリーの未来はあなたの手に

クラブ会長基本テーマ「笑顔で奉仕 楽しい仲間作り」 会長 山梨一正

副会長 西原克甫 幹事 中山和雄

第996回 例会

2010.04.23(金)曇

司会:土屋 巧君 指揮:山本 章君
ロータリーソング「それでこそロータリー」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ 検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

せせらぎ三島ロータリークラブ

会長 山梨一正君

先日の火曜日には宇宙飛行士の山崎さんが無事任務を終わり帰還致しました。

その中で山崎さんは美しい地球でこうして自然を感じる事が出来嬉しく思います。とコメントされました。

本当に地球とは宇宙から見ても美しく生命が生存するには奇跡的条件を備えた惑星である事を認識する必要があります。

しかし地球では出来ない宇宙ステーションの無重力の中で行われている様々な実験も興味があります。その中で子供のお願した赤いシャボン玉の実験は分かり易く思いました。

宇宙では限りなく色々な不思議が起こります。

その1つ、夜空に輝く星を見ていると流れ星を見る事があります。今日4月23日金曜日午前2:00頃、こと座流星群の流れ星があらわれます。毎年4月16日~4月25日頃迄こと座を中心とした流れ星が見られます。天候さえよければいつでもみることが出来ますが、普段の日は数が少なく運が良くないと見つけられません。

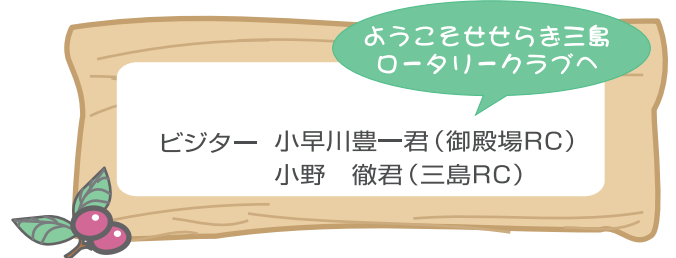
流星群の中でも特に沢山の流れ星が現れる流星群があり、毎年8月12日~13日頃現れるペルセウス座流星群。12月13日~15日に現れる双子座流星群が有名です。

又毎年11月17日頃にしし座流星群も有名で2001年11月18日には1時間に千個以上の流れ星が見られました。

私は10年程前迄磯釣りに熱中してしまして中でも夜釣りの時は沢山の流れ星を見ました。又、流れ星が随分長く、願い事が叶うと言われて見ていましたら人口衛星であり又驚く事に自爆し花火の様に輝きました。当初は思わず戦争でも起きるのではないかと

と心配したものです。それは不用になった人口衛星を自爆させた物の様です。地球を取り巻く宇宙空間も不用になった人工衛星がゴミのごとく散在し今後宇宙環境も考える必要があると言えます。

科学の進化は便利さと裏腹に多くの問題を抱えていますがこの素晴らしい地球を私達人類は大切にしたいものです。



出席報告				
	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	31/36	86.11%	34/36	
今回	94.44%		会員総数	
欠席者	あなたが見えなくて残念でした。			

内田君、遠藤君、岡君、金澤君、米山君

幹事報告

幹事 中山和雄君

1. 次週は特別休会となっています。また5月7日の例会は地区協議会の報告をお願いいたします、25日の地区協議会に出席の方はよろしく願いいたします。
2. 5月28日の例会はせせらぎ三島ロータリークラブの1000回記念例会となっていますので、出来るだけ仕事の都合をつけ、全員の参加をお願いいたします、また例会時間変更(18:30~)となっていますのでお間違えのないようにしてください。

【地球上の水資源】

水はいくらでもあると私達は考えがちですが、実際はたくさんあることはありますが、その96%以上が海水です。私達が生活のうえで水を必要としています、それは海水でなく淡水で塩分がほとんどふくまれていないきれいな水です。

それでは地球上に水はどれだけ存在しそのうち淡水はどのくらいあるのでしょうか。まず地球上に海水が134京トン(1京トン=1万兆トン)あります。この量は20億年前と量質ともほとんど変わらないと言われています。また淡水は2,5京トンありまして、その内、北極や南極、グリーンランドに氷が2,4京トンあります、もうこれで地球上の水のほとんど98%以上を占めています。陸地にある川、湖や沼、地下水などの淡水は、地球上の水の0,8%しかありません。しかも淡水の大部分は氷雪のなかにあり、人間が利用できる水は雨水を除くと河川の水と地下水のごく一部しかありません。水を資源として評価する場合、量とともに質も重要であります。

上水道として使うには、病原菌や毒物をふくまないこと、異常な酸性やアルカリ性を示さないこと、無色透明で異臭がなく、不快感や不安感を与えないことが要求されます。また工業用水などはその用途によってそれぞれの水質が要求されます。20世紀は領土紛争の時代でありましたが、21世紀は水紛争の時代になるといわれています。発展途上国の人口増加と生活の向上は、水の需要を爆発的に増大させると予想されています。とくにアジア、中部ユーラシア、中近東、アフリカなどは慢性的な水不足に悩む国々があり、人工増加にともない急激な水質の悪化が見られます。先進国においても、国際河川をはじめとして上下流で水をめぐむ問題がおきています。現在、世界60億人のうち5人に1人が安全で生活に必要な水を確保できずにおり、300万から400万人が水の汚染などが原因で死亡していると推定されています。水の汚染は、下水や農薬、産業廃棄物などに起因しています。

また、地下水の過剰な汲み上げによる地盤沈下や、地下水に塩水が入りこむなどの被害も生じています。また、灌漑(農地)面積の拡大による地下水枯渇が1940年以降、農業用の水資源利用は3倍以上に増えました。これは全世界で利用される水資源の約70%をしめています。そのなかで、灌漑面積の拡大により生産を増やせる余地は限界に達しています。とくに中国やインド、北アフリカ、中近東、米国の一部などで、土地を灌漑するために、降雨によって補充されるより早いペースで地下帯水層の水がくみ上げられています。インド、中国、メキシコなどでは年間1メートル近くも地下水位が低下しています。そのためどんどん深い井戸を掘らなければならなくなっています。

このように世界中の多くの国で、水資源は、土地の利用可能性以上に希少化してきています。このようなことで淡水資源の確保は世界各地で21世紀の主要課題と予想されています。

【日本の水資源】

これまで日本は、水の豊かな国であると考えられてきました。それは1年間にふる水の量が多いということからです。日本はユーラシア大陸の東海岸に位置し、世界有数の多雨地帯であるアジアモンスーン地帯に属しています。

全世界で1年の降雨水量は900～1000といわれています。それに対し、日本は1700ぐらいです。これは赤道付近と同じ数値です。しかも蒸発によって失われるのは、年間に600～700と、乾燥地域や熱帯地域に比べると少ない量です。

一方、年平均降水量に国土面積を乗じ、全人口で除した人口一人当たりの年平均降水総量を見ると、約5200立米/年・人と、世界の平均である2300立米/年・人の4分に1程度であり、諸外国と比べ水に恵まれているとはいえません。しかも、雨がなくても、季節的に偏っており、むしろ洪水になって流れ出してしまうので、利用できる水の量がぐっと減ってしまいます。これらの、かなりの部分が利用されないまま海に流出しています。

さらに季節的、地域的な差がかなりあり、ほとんどの地方で梅雨期、台風期また、日本海沿岸地方では冬季にまとまって降ることが多く、これらの中間期には少ないのです。そのため、河川の流量にも影響を受けて、降雨期には水害が発生し、中間期には水不足という状況があります。とくに小雨の年には、各地で深刻な水不足問題が発生します。このようにわが国では降水の季節的、時間的な偏りが著しいため、できるだけ河川の流量の平準化をとる必要があります。

そこで求められるのが、森林の水保全機能です。水保全機能の中心は森林土壌です。浸透性、透水性にすぐれ、かつ厚い土壌を保持している森林が、水保全機能の高い森林です。こういう森林は、いわば分厚いスポンジでおおわれていると考えられ、その働きによって、降雨を山地にたくわえて洪水を抑制したり、反対に無降雨が続いたときに除々にたくわえを放出し、河川の流量の変化を少なくします。

降水は森林土壌をゆっくり通るうちに陽イオンの吸着あるいは土壌にふくまれる微量元素が溶解込み、結果的に一定の組織に調節され、良質化、安定化されます。森林からの流出水は一般に浄化されていて、衛生的で安全で悪臭、悪味を感じず、清らかです。しかも、おいしい水の条件である各種ミネラルが含まれ結果的に適当であることが多いとされています。

【おいしい水の条件】

都会の水を飲み慣れてると、井戸水や山の湧き出る水はととてもおいしく感じられます。そでは、このおいしさは、一体どういうところからくるのでしょうか。水道水がまずい最大の原因は異臭です、カルキの

におい、カビのにおい、があるからです。汚れた水を元に水道水をつくったからであります、それだけ臭いの物質が多く、殺菌のために塩素もたくさん使われるために、とくにまずくなります。水道水でも10～15℃くらいに冷やしたものは、おいしく感じられます。つめたいと、すっきりとした感じを与えること、味の感覚がにぶくなって、臭いや味が気にならなくなることが原因であります。実は、井戸水や湧き水がおいしいのも、その第一の原因は温度です。井戸水は、雨水が地中で濾過されて浄化されたもので、年間を通して温度変化が少なく、本州では12～14℃と、水をおいしく感じる適温になっているのです。

このように、水の温度は、水のおいしさにとって大事な条件であります。おいしい水の3条件があります。温度は重要な項目にあげられます、また、なにも溶け込んでいない純粋な水は美味しくありません。おいしい水は、味をよくする成分をふくんでいて、味を悪くする成分をふくまない水であります。

それでは、あじをよくする成分とは、どんなものでしょうか、大きく3つの条件をあげることができます。

1, ミネラル: ミネラルとは、カルシウム、マグネシウムをはじめナトリウムやカリウムなどが、水に溶けている鉱物物質の総量のことです。多すぎても少なすぎてもだめで、1リットル中に30～200、なかでも100 ぐらい、ふくむのがまろやかな味になります。

2, 硬度: 硬度とは、カルシウムとマグネシウムの合計量です。適量は1リットル中10～100 ぐらいで、50 前後が多くの人に好まれます。

3, 二酸化炭素: これが十分溶けていると、水に新鮮でさわやかな味を与えます。

ここで、1の、ミネラルと2の、硬度は重なるところが多いので、結局、おいしい水の3条件は、水温、ミネラル量、二酸化炭素ということになります。

【深刻化する地下水の汚染】

もともと人は、大地からわきだした水を汲み上げた地下水を飲んでいました。地下水は雨水が地中で濾過されてきれいな水になったものであります。その地下水が汚染されて、飲めない地下水が増えていきます。地下水は近所の、有害な排水などの汚染を受けやすく、とくに大腸菌に汚染されていることがあります。大腸菌がいるということは、病原菌がふくまれていることが多いのであります。つまり、大腸菌をふくんだ水を飲むと、他の菌からの病気、とくに伝染病にかかることがあるので怖いのであります。病原菌を調べないで大腸菌を調べるのは、大腸菌のほうが調べやすいからであります。大腸菌そのものは、ほとんど病気を引き起こしません。ただし、病原性大腸菌といって、強い毒素をもち、大変な下痢をひきをこすものがあります。

日本では1990年に、浦和市の幼稚園で集団下痢で、園児2人が死亡、20人近くが入院する事件

が有名であります。園児が飲んでいた井戸水から病原性大腸菌O157が検出されました。井戸水が汚れた水で汚染されていたのです。

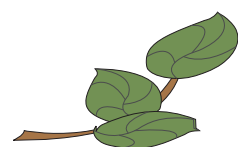
その後、O157は猛威を振るい、たくさんの死者、病人を出しています。また、地下水にはいりこむのは、大腸菌だけではありません、トリクロロエチレンやテトラクロロエチレンのような科学物質に汚染された地下水がふえてきています。これらの科学物質は主に、金属部品をつくる会社やクリーニング店などが溶剤や洗浄剤として使い地下に浸透すると、地下水汚染をひきおこしています。たくさんふくまれている水をとり続けると、肝臓や腎臓に障害があり、また、発ガン性もあると言われてしています。

その他、地下水の硝酸性窒素の増加の危険視されています。硝酸性窒素とは、農地で過剰に用いた窒素肥料や畜産の排水、家庭排水などから供給された窒素化合物が、土壌中で除々に分解されてできるものであります。硝酸性窒素をふくんだ水を、赤ちゃんや胃液の分泌がすくない人が飲むと、貧血症などの健康障害が生じます。欧米を中心に死亡例も数多く報告されています。また、胃の中で発ガン性物質を生じやすくなるといわれています。1996年の全国調査では、調査地点の約5%の井戸水の基準を上回る濃度の硝酸窒素が検出されて、深刻化しています。

【水道水とトリハロメタン】

水道水に塩素が注入されていますが、塩素は消毒のために加えていると考えがちですが、それは、一面ではただしく、一面では正しくありません。大都市の浄水場では、マンガンやアンモニアなどの有機物の除去に塩素をつかっています。トリハロメタンはおもに、浄水場で塩素と水のゴミ、有機物や水の中の臭素などと結びつき、トリハロメタンが発生します。有機物が多い、つまり汚れた水ほどトリハロメタンが発生します。とくに、水温が高いほど多く発生します。また、一方では水道管の途中で混入するかもしれない病原菌の殺菌につかっています。このときの量はそれほどおおくありません。(トリハロメタンは発ガン性物質といわれています。)

残留塩素: 残留塩素は安全な水道水を供給するために、水道水を塩素で滅菌しています、その濃度は0, 1 PPMの残留塩素が水道の末端で検出されなければならないと厚生省で定められています。残留塩素は家庭によっては、カルキ臭が気になることがあると思いますが、このカルキ臭を取り除く方法として、水道水を約10分から15分沸騰すると残留塩素は蒸発します。また浄水器などにより残留塩素を除去することもできます。



委員会報告

広報委員会

委員長 中村 徹君

2009～10年度広報委員会

提言

次年度広報委員長と静岡新聞三島支局記者との懇談会の設定について

趣旨

- 1、CLPによって広報の強化が叫ばれ、当クラブの委員会構成表も4大奉仕委員会から、広報委員会を含めた5大奉仕委員会となり、3年目になります。
- 2、広報の強化を考える時、一般社会人やマスメディアへの働きかけの充実が、急務に思えます。
- 3、また広報とは広告とは違い、ニュース・リリースをマスメディアの編集部や報道部に送って、無料で取り上げてもらうものであり、広報委員会の智恵と努力が必要となります。
- 4、広報委員長は記者と付き合うこと、しっかりとした信頼関係、友好関係を作り上げる事がまず求められる事であり、クラブは全力で広報委員長を支えなければならないと思います。

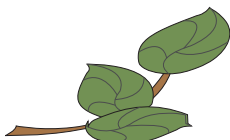
懇談会での議題

- (a) 次年度理事、役員を紹介
- (b) 次年度会長の方針
- (c) 次年度クラブ事業紹介、タイ放置自転車贈呈式出席事業、「3年後の自分への手紙」事業、植林事業など
- (d) ハンドベル(ミセスアモーレ)の紹介
- (e) (a)、(b)、(c)、(d)については毎年6月までに次年度理事役員の紹介原稿を記者に依頼
- (f) クラブフォーラム・広報での卓話を記者に依頼
- (g) ロータリー家族会へ記者家族を招待

出席義務者

次年度会長、次年度幹事、次年度広報委員長、次年度奉仕プロジェクト委員長、次年度親睦委員長、次年度プログラム委員長、せせらぎ三島事務局
オブザーバー
今年度会長、今年度広報委員長、その他クラブ有志を募る

日時：毎年5月、12月(クリスマス家族会前後)



委員会報告

米山梅吉記念館運営委員会

矢岸貞夫君

米山梅吉記念館春季例祭のお知らせ

日時 平成22年4月29日(木・祝)14時から

場所 米山梅吉記念館ホール

受付:13時から

記念式典:14時から

記念事業:14時50分から

特別講演:15時30分から

「深良用水(箱根用水)について」

講師 裾野市深良地区郷土資料館運営委員 小林秀年氏

懇親会:16時35分から17時30分



スマイルボックス

小野 徹君(三島RC):山梨会長のお話をじっくり聞かせていただきます。

新井 香君:先週例会後“南”にて親睦会を開いていただき有難うございました。

片野誠一君:本日は私の卓話の当番です。宜しくお願い致します。

兼子悦三君:先週、先々週、例会欠席して申し訳ありません。バンコクはデモでスリウォーククラブの例会場周辺は大変でした。

Dテーブル:Dテーブル会を開催しました。会長、幹事はご多忙のためテーブルマスターが代理で挨拶、テーブル全員と、客人一人の参加で楽しく有意義な会でした。残金スマイルします。

PHOTO GALLERY

